

授業に役立つ

国際理解/開発教育実践の第一歩

JICA地球ひろば

平成21年度
教師海外研修
授業実践報告書集

栃木・群馬・千葉・新潟・山梨県教員【マレーシアコース】

MALAYSIA



JICA LIBRARY



1208293 [9]



独立行政法人 国際協力機構



目次

■ 目次	01
■ はじめに	02
■ JICA 地球ひろばのめざすもの / 「JICA 地球ひろば教師海外研修」とは？	03
■ 研修のながれ	04
■ 海外研修日程	05
■ 海外研修トピックス	06
■ マレーシア情報	08

■ 研修を活かした授業実践例

実践者 学校名	授業実践学年	タイトル	授業実践教科	
吉田 智和 千葉県 野田市立東部小学校	小 1	他の国の人と友達になろう	学活	10
湯本 すみれ 新潟県 新潟市立桜が丘小学校	小 1	マレーシアとの『出会い』から考えよう ～みんなともだち マレーシア大きくせん～	学活、生活	14
戸澤 篤子 群馬県 富岡市立一ノ宮小学校	小 2	知らないなんてもったいない	学活、道徳、音楽、朝の会	20
星 笑美子 栃木県 宇都宮市立昭和小学校	小 5	大切なもの、守っていくには	総合的な学習の時間	24
加々美 浩子 山梨県 北杜市立高根清里小学校	小全	マレーシアの環境と人のつながり	社会、理科、生活	30
木原 信吾 群馬県 高崎市立矢中中学校	中 1	視野を広げよう	総合的な学習の時間、道徳	36
星 聡美 栃木県 那須塩原市立箒根中学校	中 2	コミュニケーション・文化について考えよう	学活、道徳	41
後藤 恭子 千葉県 千葉市立打瀬中学校	中 2	お互いを理解するために大切なことは？	英語、学活、道徳	46
坂寄 綾 栃木県 作新学院高等学校	高 2	社会について知ろう ～マレーシアの環境問題と日本のかかわり～	総合的な学習の時間	51
丸山 智恵子 新潟県 新潟市立万代高等学校	高 3	出会う幸せ 語る喜び	英語	55

■ 参考資料	61
■ 参加者氏名／同行職員より	65

はじめに

独立行政法人国際協力機構（JICA）が実施している「教師海外研修」は、国際理解教育および開発教育に関心のある先生方が、開発途上国の置かれている現状と日本との関係への理解を深め、その成果を次世代を担う児童・生徒の教育に役立てていくことを目的に実施しています。毎年全国で約150名の先生方に、国際協力の現場での関係者や現地学校との交流を通じて、多くの教材を持ち帰っていただいています。

今年度は「JICA 地球ひろば」より1都6県（栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、新潟県、山梨県）から合計36名の先生方にご参加いただき、国内研修を経てラオス、モンゴル、マレーシアの3カ国を訪問しました。

国内研修では、国際理解教育の基礎および訪問先の国事情といった多くの情報を吸収し、考え方・手法を学びました。また帰国後は各都県において授業実践報告会を開催し、過年度参加者と共に地域での国際理解教育のネットワークが広がるきっかけづくりとして、企画・実施をしています。

本書では、教師海外研修に参加した先生方から、それぞれの学校や地域において実践された様々な事例をご紹介します。受講者の感想や授業作りのポイントも随所に掲載されておりますので、それぞれの「授業での活かし方」を多くの教育現場で参考にいただければ幸いです。

なお、東京・広尾にあります「JICA 地球ひろば」は、市民参加による国際協力の拠点として、多くの市民の方々にご活用いただいています。展示・相談スペースや図書室、途上国の料理を味わえる「カフェフロンティア」もあり、修学旅行や社会科見学での活用、国際理解についての調べ学習、その他先生方の国際理解教育の相談にも対応させていただいております。ぜひ「JICA 地球ひろば」にお越し下さい。

平成22年2月

JICA 地球ひろば
所長 貝原 孝雄



1208293 [9]

JICA 地球ひろばのめざすもの

JICA 地球ひろばは、市民参加による国際協力の拠点として多くの市民が訪れ、途上国の人々への共感や連帯感を育む場となり、国際協力に関わる市民団体の情報発信や交流、研修の拠点として利用される場となることを目指して設立されました。

この JICA 地球ひろばでは、皆様の国際協力活動を応援し、ボランティアの心で国際協力に参加する人々が増えること、地域社会での体験に根ざした市民による国際協力がより確実に途上国の住人ひとりひとりに届くことを推進したいと考えます。

「JICA 地球ひろば 教師海外研修」とは？

◇研修の目的

開発教育 / 国際教育 / 国際理解教育に取り組んでいる、または今後取り組む意欲のある教員を対象に、開発途上国での研修を通じ、途上国の置かれている現状と日本との関係を深め、その成果を次代に担う児童・生徒の教育に役立てていくことを目的として実施します。

また、研修参加後、JICA 地球ひろばと協力し、地域や教育現場で開発教育 / 国際理解教育の推進に活躍していただくこともねらいとしています。

◇応募資格

- ・ 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、高等専門学校（1～3年）、特別支援学校等、及び教育委員会において教育活動に従事していること。
- ・ 年齢が応募締め切り時満 50 歳以下であること。
- ・ 所属校の校長（教育委員会においては所属長）の推薦があること。
- ・ 過去に、本研修、JICA 海外ボランティア事業、JICA 専門家、ODA 民間モニター等で海外に派遣された経験がないこと。

◇平成 21 年度研修国

- ・ ラオス（東京都）
- ・ モンゴル（埼玉県・千葉県）
- ・ マレーシア（栃木県・群馬県・千葉県・新潟県・山梨県）

◇海外研修期間

- ・ 約 10 日間（毎年 7 月下旬～ 8 月上旬に実施）

◇募集時期

- ・ 毎年 4 月上旬～ 5 月上旬

◇お問い合わせ

JICA 地球ひろば 地域連携課

Tel : (03) 3400-7327 Fax : (03) 3400-7394

研修の流れ

◇第1次～3次研修

■第1次研修：6月13日（土）～14日（日）

授業実践において役立つ参加型学習について学びました。

■第2次研修：6月28日（日） 都県別で実施

帰国後の授業実践をより実りあるものにするために、海外研修における目的を再確認しました。

■第3次研修：8月2日（日）

出発前の最終確認をしました。

さあ、いよいよ研修国に向けて出発です！



◇海外研修

8月3日～13日（11日間）詳細は5～7ページを参照ください。

研修国の現状を実際に自分の目で見て肌で感じ、様々なことを考えました。



◇帰国時研修

8月23日（日）

海外研修で得られた資料を活用する授業について考えました。

◇各校での授業実践

9月～12月

研修で得られた経験、資料を活かし、参加者がそれぞれ授業を実践しました。



◇授業実践報告会

■都県別授業実践報告会：1～2月 都県別で実施

研修で得られた経験、資料を活かして実践した授業について報告しました。

■全体成果報告会：3月7日（日）

1年間の研修を振り返り、次年度への展望を参加者全体で考えました。本研修の総決算です。

海外研修日程

研修テーマ：生活と環境

月日	曜日	時間	内 容	ねらい	場 所
8月3日	月		→成田発→コタキナバル		
8月4日	火	午前	【青年海外協力隊】 モンフォート職業訓練校（服飾）	JICA ボランティア活動・職業訓練校を通じた教育現場の理解、生徒たちとの交流	コタキナバル
		午後	【学校視察】 St.Michael 中高一貫校 【ホームステイ】	教育現場の理解 ホームステイを通して、生活・文化体験	
8月5日	水	午前	【学校訪問】 St.Michael 中高一貫校	学校での環境教育の取り組みを学ぶ日本での環境教育の取り組みの紹介	
		午後	【環境施設】 河川水質管理施設視察 【ホームステイ】	生徒たちと川の上流で水質検査をおこない環境問題について共に考える。	
8月6日	木	終日	【学校訪問】 St.Michael 中高一貫校	授業を見学しマレーシアの学校での教育法を学ぶ日本人教師による模擬授業、交流	
			【JICA 関係者との懇親会】		
8月7日	金	午前	【環境教育・青年海外協力隊】 コタキナバルウェットランドセンター ：環境教育アクティビティ参加	Kota Kinabalu Wetland Centre KKWCJICA ボランティア活動地域に対する環境教育を知り、体験する	
		午後	【技術協力プロジェクト】 ボルネオ生物 多様性・生態系保全プログラム（BBEC II）	サバ州の湿地保全の現状を学ぶ	
8月8日	土	午前	【市内視察】 開発教育関連教材収集	文化や歴史を学ぶ	
		午後	【環境保護】 自然体験 【産業見学】 パーム農園	絶滅危惧種テングザル、パームオイル農園を見学し、マレーシアの自然と産業について学ぶ。	
8月9日	日	午前	【市内視察】 開発教育関連教材収集	文化や歴史を学ぶ	クダサン
		午後	中間振り返り	中間振り返りをおこない、研修の前半を整理する	
8月10日	月	午前	【環境保全】 キナバル公園	世界遺産であるキナバル山を望むキナバル公園を視察し、公園局が取り組む環境教育について学ぶ	
		午後	【青年海外協力隊】 キナバル公園ポーリン支所	JICA ボランティア活動	
8月11日	火		→クダサン→コタキナバル→クアラ ランプール	ボルネオ島の標高の高いクダサンから、首都までの移動。	クアララン プール
8月12日	水	午前	【市内視察】 開発教育関連教材収集	多民族社会、半島との違いを体感する。	
		午後	【JICA 事務所】 最終振り返り →クアラランプール発	研修全般の振り返り総括、授業実践のためのアイデアを整理	
8月13日	木		→成田着		

海外研修トピックス

◇モンフォート職業訓練校

モンフォート職業訓練校と青年海外協力隊の活動を視察し、生徒たちと交流を行いました。

【参加者の感想】

*職業訓練のみならず人格形成にも力を入れているとのこと。「若い人たちには希望がある」という言葉を聞き、私も教師として子どもに夢を持たせる存在でありたいと思った。



◇St.Michael 中高一貫校

環境教育に力を入れている中高一貫校を視察し、学校の取り組みを学び、交流授業を行いました。

【参加者の感想】

*海外で言葉が通じなくても、心からのメッセージがあれば思いは伝わるという感触を交流授業を通してつかんだ。
人生においてとても衝撃的な時間となった。



◇灌漑排水局河川水質管理施設

ST.Michael 中高一貫校の生徒たちと河川水質管理施設を訪れ、環境について共に考えました。

【参加者の感想】

*一人ではできないことでも、協力することによって川をきれいにすることができたり、いろいろな角度からアクションをかけていく事ができるということを学んだ。



◇ホームステイ

マレーシアの一般庶民の生活を知るために ST.Michael 中高一貫校の生徒の家にホームステイしました。

【参加者の感想】

*このホームステイを通して、人と人とはどこかでつながっていて世界に一人で生きている人はいないということを強く感じた。
この素晴らしい出会いを早く学級の子どもたちに伝えたい。



◇コタキナバルウェットランドセンター

青年海外協力隊と BBEC プロジェクトの取り組みや地域への環境教育を知るためにセンターを視察し、サバ州の環境保全の現状を学びました。

【参加者の感想】

*自然の偉大さ、特に海水に生きるマングローブの生態の凄さに驚いた。生きようとする生命力と、周りを助けようとする犠牲心は人間にも何かメッセージを残しているように思えた。



◇パーム農園、リバーサファリ

パームオイル産業を知るためにパーム農園を視察しました。その後リパークルーズに参加し、絶滅危惧種などを観察し、マレーシアの自然について感じ考えました。

【参加者の感想】

- *自然と産業の関係は、否定や肯定という一面的な考えではなく、多面的に考えることが大切だと思った。
私たち日本人の生活も彼らの暮らしとつながりがあるという事実をまず知ることが重要だと思った。



◇キナバル公園

世界遺産であるキナバル山を望むキナバル公園を視察し、公園局の取り組む環境教育について学びました。

【参加者の感想】

- *多様な植物の中に、「メディカルプラント」と分類される植物があり、昔から薬として代々伝えられてきたとのこと。
人間が自然の知恵を借りて共存してきたことを知り感動した。



◇キナバル公園ポーリン支局

キナバル公園ポーリン支所と青年海外協力隊の活動を視察し、環境について考えました。

【参加者の感想】

- *相手の可能性を信じ信頼関係を作っていた青年海外協力隊の姿勢に深い感銘を受けた。私も今まで以上に子どもたちを信じ尊重しながら向き合っていくと決意した

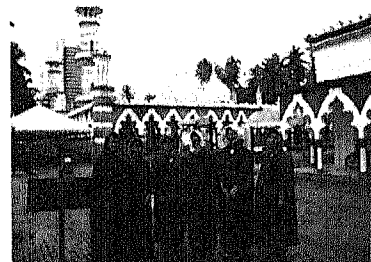


◇クアラルンプール市内視察、教材収集

クアラルンプール市内を散策し、多民族社会を体感しました。
そしてマレー半島とボルネオ島との違いを知りました。

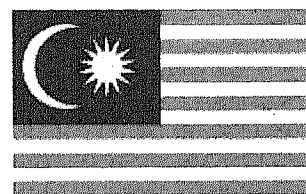
【参加者の感想】

- *他民族社会に触れたことで、お互いを思い、受け入れ、笑うために大切なことは何かと考えた。今のこの気持ちを生徒に伝え共に考えていきたいと思った。



マレーシア情報

(1) 正式名称 (和文) マレーシア
(英文) Malaysia



(2) 政 体 立憲君主制 (議会制民主主義)

(3) 首 都 クアラルンプール

(4) 人 口 2,657 万人 (2007 年統計局)

(5) 民 族 マレー系 (66%)、中国系 (約 26%)、インド系 (約 8%)、その他 (1%)

(6) 言 語 公用語: マレー語 ほかに中国語、タミル語、英語

(7) 宗 教 イスラム教、仏教、儒教、ヒンズー教、キリスト教、アニミズム

(8) 略 史 14 世紀末マレー半島南部にマラッカ王国成立。
18 世紀後半からイギリスがペナンなどに植民地を建設。
1919 年に半島支配を確立。
1942 ~ 45 年の日本占領を経て、57 年マラヤ連邦がイギリスから独立。
1963 年シンガポール、サバ、サラワクを加え、マレーシアとなる。
1965 年シンガポールが分離、独立。

(9) 気 候 季節風の影響を受け、一年を通して高温多湿であるが、降雨量の多い北東モンスーン季と比較的少ない南西モンスーン季があり、ところによっては短い乾季がある。クアラルンプールの年平均気温は摂氏 26 度である。

(10) 通 貨 リンギ

【参考】「JICA HP - 国別生活情報」国際協力機構、「外務省 HP - 各国・地域情勢」外務省



研修を活かした授業実践例

教師、および児童の原文を活かして掲載しておりますので、
一部表現のばらつきがありますがご了承ください。

他の国の人と友達になろう



Malaysia

吉田 智和

千葉県

野田市立東部小学校

- 担当教科：小学校全科
- 実践教科：学活
- 時間数：8時間
- 対象：小学1年生
- 対象人数：24名

(1) 授業実践のテーマ・目的

- ・ マレーシアの子どものコメントをもとに、自分たちと異なる言語を使う人々に関心を持つ。
- ・ マレーシアと日本との生活を比べて、相違点や共通点を見つけ、様々な文化があることに気づく。
- ・ 相手の文化を尊重すると共に、自分の国の良さについて気づく力を育てる。
- ・ 自分たちが当たり前と考えていたことは、他の国の人から見るとそうではないことを知り、それぞれの良さを認め、自分以外の人々を認めていく態度を育てる。

(2) 授業の構成

時限	テーマ、ねらい	方法・内容	使用教材
1	【この言葉、なんて読むの?】 マレーシアという国に対して、関心を持つ	・自分たちの絵画に対してのマレーシアの生徒のコメントを見て、関心を持たせる ・マレーシアの絵はがきを見て、思ったことを話し合う	・マレーシアの生徒からクラスの子へのメッセージ ・世界地図 ・絵はがき
2	【マレーシアってどんな国?】 言葉や生活環境に違いはあっても、同じことに関心を持つ、自分たちと同じ人間であることに気づく	・マレーシアの写真を見たり、話を聞いたりすることを通して、自分たちとの違いや同じところについて考える	・世界地図 ・マレーシアでの写真
3	【マレーシアの学校って日本とちがうの?】 学校の様子や教科書から、自分たちとの相違点、共通点について知る	・マレーシアの教科書を見て、学校について関心を持つ ・自分たちと同じところ違うところについて話し合う	・マレーシアでの写真 ・マレーシアで購入した現地の教科書
4	【びっくりしたことを書いてみよう】 マレーシアについて驚いたことを書くことで自分たちの生活を見つめ直す	・今までの学習を通して、素直に驚いたことをカードに書いて表してみる	・マレーシアでの写真
5 8	【マレーシアのお友達に日本のことを知らせよう】 マレーシアの友達に知らせるという活動を通して、自分たちの国、生活について見つめ直す	・マレーシアの友達に対して、自分たちの生活で知らせたいことを絵や文に表す	・マレーシアでの写真 ・自分たちが4校時に作成したカード

〔3〕 授業の詳細

1 時限目：【この言葉、なんて読むの？】

マレーシアの中高一貫校の生徒に、日本の学級の子供たちの絵を手渡しして、コメントを貰っていた。本時ではそのコメントを学級の子供たちに返すことから始まった。

「何て書いてあるの？」から子供たちの興味は始まり、「どんな国なのかな？」という言葉が出るのを待った。

スライド形式で、衣食住、土地、生物などの様々なマレーシアの写真を見せながら解説を加えていった。ときおり「これは日本の何に似ているかな？」「みんなの知っている物と比べてどうかな？」などと問いかけ、自由に発言し合いながら進めていった。

一通り写真を見せた後、もっとどんなことを知りたいのかを自由に記入させた。2 時限目と 3 時限目は、その意見をもとに構成した。

【マレーシアの生徒が書いてくれたコメント例】

Name (略) Age:13 years old
Message: Thank you for your drawing,
it's beautiful. I like it.

2 時限目：【マレーシアってどんな国？】

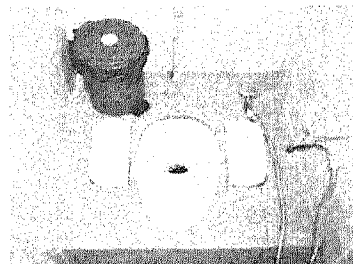
子供の興味は、マレーシアの生活を知りたいというものであった。そこで、衣食住を中心に、ときおりクイズ形式にして写真を提示しながら、自分たちとの違いについて話し合わせた。

家庭の電化製品（テレビ、パソコン、冷蔵庫、洗濯機、扇風機、ストーブなど）やトイレ、浴室については、「浴槽がないなら行きたくない」「トイレに紙が無いなんて」という意見が出た。外国人向けのホテルには、トイレットペーパーも浴室もあり、それぞれの文化に合わせていることを話した。また、ホームステイ先では、わざわざ先生達のためにホストファミリーの方がトイレットペーパーを購入していた話をすると、「先生が行ったおうちの人って、優しいんだね」と話してくれた。

その後、「もしマレーシアの友達遊びに来たらどうする？」と質問したところ、「豚肉などの食べてはいけない物は出さない」「マレーシアのお家で

普段どんなことをしているか調べる」と答えた。

食べ物や、動植物に対しても興味津々であった。「食べ物の味はどんなの？」「どんなにおいがるの？」「触ったら、どんな感じなの？」と写真だけでは分からないことについて質問が多かった。子供たちの欲求に答えるためにも、違う環境に出るときは、まず教師が「試してくる」ことが大切なのだと感じた。



【学校のトイレ】



【ホテルのトイレ】



【浴室】

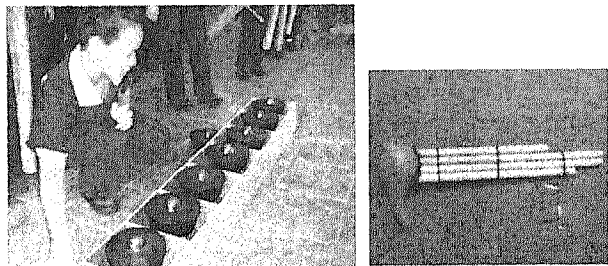
3 時限目：【マレーシアの学校って日本とちがうの？】

身近な学校について知りたいという意見が多かったので、教室の内装の写真を提示して、自分たちとの違いと同じところを出させた。子供達にとって、一番身近な社会は学校である。学校を比較することが小学 1 年生にとってもわかりやすいと感じた。

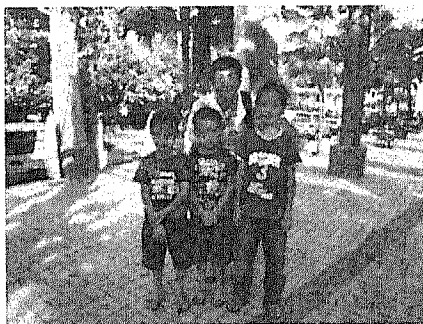
しかし、私たちが見学させて戴いたのは中学校・高校だったので、その資料で授業を進めた。ホームステイ先に小学校に通う子どもがいたのに十分にリサーチできなかったことが悔やまれた。

次に、マレーシアで購入してきた楽器を吹いたり、同じ年代の算数と理科の教科書を見せたりした。言葉は英語で書かれていたが、挿絵を見て、ほとんどの子が問題の意味を読み取れていたのに驚いた。

「英語が読めるなんて、すごいね」「言葉はむずかしいけど、習っていることは同じだね」と同じ年代の子の学習内容に興味を持つと共に、より強く「住んでいる場所は違っても、同じ人間なんだ」という意識を持つことができた。



【マレーシアの楽器】

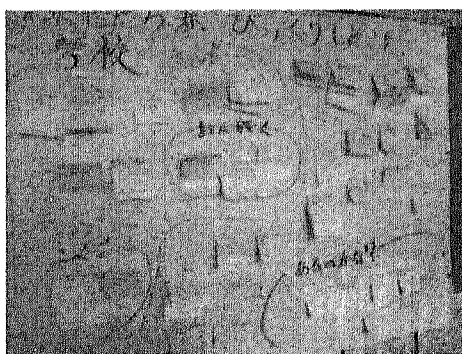


【子どもたちの服装】

4 時限目：【びっくりしたことを書いてみよう】

今までの振り返りを兼ねて、自分たちとの生活と比べて、驚いたことを子ども達に自由に記入させた。振り返りやすいように今まで用いた教材を並べて提示しておいた。

付箋に書いたことを子ども達と話し合いながら、学校と生活の二つに分けてみた。そのなかで、「日本には〇〇があるけど、マレーシアにはあるのかな？」と新しく不思議に思ったことを書く子どももいた。



子ども達とまとめた表が以下のものである。

学校について

- ・こくばんが白い
- ・机にひきだしがない
- ・給食がないのが、びっくりした
- ・なべみたいな楽器がびっくりした

生活について

- ・ツインタワーがびっくりした
- ・ウツボカズラがびっくりした（生物についての意見は多かった）
- ・トイレトーパーがなかった
- ・お風呂がシャワーだけ
- ・宗教によって食べてはいけない食べものがあること（豚肉やハラルマークのこと）

5～8 時限目：【マレーシアのお友達に日本のことを知らせよう】

4 時限目を受けて、「マレーシアの友達に自分たちのことを知らせよう」ということでまとめとした。

最初は「何を知らせればいいのか分からない」という子が多かった。そこで「前の時間でびっくりしたことがいっぱいあったよね。では、日本でのやり方を教えてあげればいいのか」と話したところ、絵に描いたり、写真を貼ったりしながら、学校や自分たちの家での事柄を次々と紹介していった。

時期は 12 月だったこともあり、学級にはストーブが置かれ、1 年生は生活科で昔の遊びをしている頃だった。

「暑いところだから、ストーブって無いのかな」

「マレーシアの友達は、お正月遊びみたいな遊びをするのかな」

「マレーシアの友達は、雪を見たことがあるのかな」

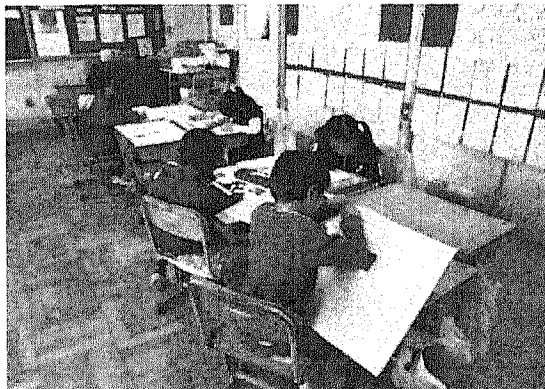
と、次々に新たな問いを思い浮かべていた。授業実践が 12 月にまでまたがらなければ思い浮かばなかった発想かもしれない。

自分たちが当たり前だと思ったことが、他の国の人にとっては違うかもしれないということに気づくと共に、日本特有のものがあるのだと気づけたことが収穫であった。

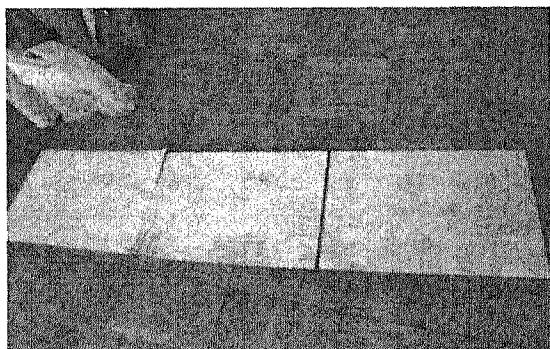
子ども達がマレーシアの友達に知らせたいことの一部を紹介する。



【給食があるよ。】



【画板という道具があるよ。】



【ぼくたちの学校の絵だよ。】

〔4〕授業実践を終えて

対象学年が小学1年生であったので、学校、身近な生活に絞って授業を構成した。導入として、子ども達の絵に対してのコメントを持って帰り、一人一人の子どもに手渡した。このことで、まず子ども達は、自分たちの絵に対してコメントがもらえたことに感激し、「なんて読むのかな?」「どんな人達な

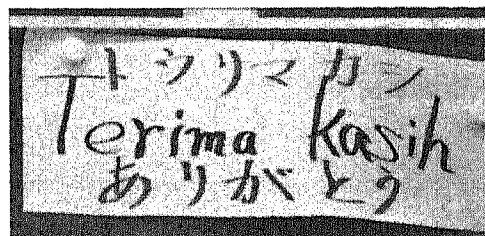
のかな?」とコメントを寄せてくれた子やその国の生活について関心を持つことができた。

「人間」について考えさせたかったので、前述したように衣食住や学校生活に焦点を当てたが、そのなかで、生き物や自然、土地についても簡単に触れた。日本にはない豊かな自然や多くの生き物に素直に感動し、それらの自然が少しずつ失われようとしていること、その保全に取り組んでいる人のことを合間に話した。1年生でも環境にスポットを当てて、考えさせることが可能であったかもしれない。

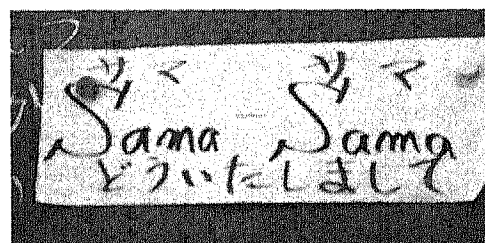
また、授業にとどまらず、休み時間や他の授業の時でも時折、「マレーシアでは、どうするの?」と聞いたがった。季節が冬になると「マレーシアにも、クリスマスはサンタクロース来るのかな?」「長袖の服はあるのかな?」と、日本の冬と比較して、他の国ではどうなのかなと思いを膨らませていた。

「マレーシアの友達とお話がしたい」という願いから子ども達が尋ねてきたことを、今でも教室に掲示している。進んでコミュニケーションを取ろうとする意欲につながったことは嬉しく思う。

子どもたちの「知りたい」という思いをこれからも大切にし、適切に答えられるように自分自身がならなければと感じた。



教室に掲示されているマレーシア語



ときどき子どもが使っている

〔5〕参考文献(引用文献・参考資料)

- 『地球の歩き方 マレーシア』 ダイヤモンド社 2008
- 『指さし会話帳 マレーシア』 戸加里康子 情報センター出版局 2001
- 『平成20年度 教師海外研修 授業実践報告書集』 JICA 地球ひろば 2009